

城西人文研究 既刊総目次

創刊号 (1973年)

序	武市春男
『城西人文研究』の創刊に際して	蒔田栄一
ニーチェとキリスト教倫理	木阪昌知
マヤの石造建築における「持送りアーチ」について	貞末堯司
意味と認識	
——パース研究(4)——	西勝忠男
シーハラヴァットパカラナ訳註(Ⅱ)	
——第1章 第3・4・5話——	森祖道
独白と対話	
——ジョイスとペローの距離——	茂呂公一
ポーにおけるグロテスクとアラベスク	水田宗子
内村鑑三おぼえ書き(その八)	岩谷元輝
人間の社会的構造と疎外	松浦孝作
『靈魂の系図』について	
——Carlyle を中心として——	松田福松
カフカの世界	
——非ユダヤ的ユダヤ人——	山口 勲

第2号——蒔田栄一教授追悼論文集——(1974年)

巻頭言	武市春男
バスク語の単文における語順の文体的価値について	堀田郷弘
内村鑑三おぼえ書き(その九)	岩谷元輝
精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造(1)	木阪昌知
『サムラー氏の惑星』試論	森哲夫
「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考	太田 広
宗教史にみる日本的均衡のメカニズム(Ⅳ)	
——マーケティングと宗教の関連において——	渡辺好章
遠近法と身体性について	山口 勲
同一性(アイデンティティ)に関する諸問題——その一——	帆足喜与子

涼袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻——	黄色	瑞華
「紙」以前の書写の用材について	井口	大介
故蒔田栄一教授 追悼	松田	福松
ああ蒔田栄一先生よ	伊部	政一

第3号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

アンデス古代文明の諸問題	貞末	堯司
発見の哲学——パース研究（6）——	西勝	忠男
首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成 ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較——	田村	正夫
鉄齋と華山	小野	浩
日本民主主義研究序論	森田	昌幸
遠近法と身体性——その哲学的意味——	山口	勲
Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's <i>Play It As It Lays</i>	水田	宗子
『おらが春』の素材	黄色	瑞華
日本におけるアンドレ・マルロー受容 ——1941年（昭16）まで——	堀田	郷弘
ジェイムズ・ジョイス研究——造形への意識——	茂呂	公一
作品とその批評 —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere”——	萩原	博子
司馬遷論	黒羽	英男
三代日本主義の系譜について	松田	福松

第4号（1977年）

論理の自律性について——パース研究（7）——	西勝	忠男
カントの「定言命法」	山口	勲
中央アメリカの考古学史 ——先コロンブス期文化の研究を中心とした——	貞末	堯司
クレアラ・アン・ペイター覚え書	萩原	博子
『教育者としてのショーペンハウアー』から ——ニーチェと自然——	河内	信弘
アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動	堀田	郷弘

アンドレ・ジッドの方法 (II)——生命の美学——	陶山	曠
冷たき牧歌		
——キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて——	永井	豊実
『おらが春』の素材 (続)	黄色	瑞華
歌人「安江不空」	小野	浩

第5号 (1978年)

南アメリカの考古学史	貞末	堯司
Manorathapūrani 源泉資料年代論	森	祖道
大学英語教育の問題点 (上)	鮫島	久男
クレアラ・アン・ペイター覚え書 (II)	萩原	博子
『シンペリン』皮肉な遊戯	戸所	宏之
カフカ研究の視座を求めて	山口	勲
東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説(1960年2月22日) と東京羽田空港におけるインタビュー (2月29日)	堀田	郷弘
アンドレ・ジッドの方法 (III)	陶山	曠
ニーチェと自然 (一)	河内	信弘
『おらが春』第一話の設定をめぐる	黄色	瑞華

第6号 (1979年)

ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために	山口	勲
パーソナリティテストとしての SCT に関する一考察		
——特に応用とその解釈をめぐる——	駒崎	勉
ジェイムズ・ジョイスの手法について (I)		
——我国におけるジョイス評価の推移——	茂呂	公一
A Textual History of Walter Pater's <i>Renaissance</i>	Hiroko Hagiwara	
マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」——	小野	昌
ニーチェと自然 (二)——『悲劇の誕生』——	河内	信弘
全集本『おらが春』について	黄色	瑞華

第7号 (1980年)

ヤスパースとフッサール		
——精神病理学の哲学的基礎——	山口	勲

- PANTUN—puisi dan puisi rupa……………黄色 瑞 華
 国際水利法に関する一考察……………土 屋 生
 ジェイムズ・ジョイスの手法について (II)
 ——我国におけるジョイス評価の推移——……………茂 呂 公 一
 The Development of the Audiolingual Approach
 ——Trends in Language Methodology in the United States——
 ……………Fumiko Tamura
 『空騒ぎ』の冥と光——偽りの力学——……………戸 所 宏 之
 「エンディミオン」における映像のあり方……………永 井 豊 実
 『ヴェニスの商人』における Venture について……………小 野 昌
 カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉——……………村 岡 正 明
 アンドレ・ジッドの方法 (IV)——生命の美学——……………陶 山 曠
 「騎士と死神と悪魔」
 ——『悲劇の誕生』におけるデュラーの銅版画をめぐる——
 ……………河 内 信 弘

第8号 (1981年)

- ヴィトゲンシュタインのケムブリッジ……………山 口 勲
 アメリカ文化論 (I)……………小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三
 シャルル・モーロンの「精神批評」(1)……………越坂部 則 道
 「高さ山々の頂きから」
 ——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み——……………河 内 信 弘
 思想家としてのニーチェ……………小 野 浩
 『四山藁』の俳論……………黄 色 瑞 華

第9号 (1982年)

- アメリカ文化論 (II)……………金 勝 久
 ジョイスのパドバ・エッセイについて……………茂 呂 公 一
 アンドレ・マルローの最初の美術論
 《La Peinture de Galanis》(1922) について
 ——マルローの初期の美術論の研究(前)——……………堀 田 郷 弘
 シャルル・モーロンの「精神批評」(2)……………越坂部 則 道
 教育場面における夢の活用 (I)
 ——その背景としてのフロイトとユング——……………細 部 国 明

- 身・語・意の三業 (tīṇi kammāni) と carita, saṅkhāra,
 samācāra池 田 練太郎
- 詩的コスモゴニーへの論理
 ——ランボー詩の内的世界——
川那部 保 明
- ハイデガー先生の想ひ出.....小 野 浩
- [研究ノート]
- 俳諧連歌における謡曲の文句取り (一)黄 色 瑞 華

第10号 (1983年)

- ヴォトゲンシュタイン：太洋の測量技師
 ——逆限定のバトス——山 口 勲
久 久
- アメリカ文化論 (Ⅲ)金 勝 久
久 久
- ジョイスのディケンズ・エッセイについて.....茂 呂 公 一
- 教育場面における夢の活用 (Ⅱ)
 ——夢と宗教——細 部 国 明
- Zur Entwicklung der deutschen Sprache
 in der DDRKuniomi Uchimura
- 『失われた時を求めて』における作中人物の出現と
 話者のまなざし.....北川原 哲 夫
- カミュと〈他者〉.....村 岡 正 明

[書 評]

- (I) LE DASAVATTHUPPAKARANA
 Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE
- (II) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA
 Texte pāli et traduction par Jacqueline VER EECKE
森 祖 道

[研究ノート]

- 涓浜庵執筆一茶.....黄 色 瑞 華

第11号 (1984年)

- 〈人間=記号〉論について.....西 勝 忠 男
- 教育場面における夢の活用 (Ⅲ)
 ——ユングの宗教夢解釈に対するフロムの批判——細 部 国 明

Erühneuhochdeutsch und Buchdruckerkunst-Ⅲ.

- Die Herausbildung der (verbalen) Satzklammer……藤井明彦
 Didaktische Probleme des Geschichtsunterrichts in den
 sozialistischen Ländern am Beispiel der UdSSR……Stefan Wundt
 知と自我
 ——初期シェリング哲学の原理について——……………小林保則
 歌人 安江不空……………小野浩
 『我春集』の序文をめぐる……………黄色瑞華

第12号(1985年)

ロンゴバルディ侵住建国をめぐる諸問題

- イタリア民族形成史の一コマ——……………森田鉄郎
 教育場面における夢の活用(Ⅳ)
 ——ユングの宗教夢解釈に対するポスの批判——……………細部国明
 ベン・ジョンソンの男性的雄弁の美学
 ——*Timber*の詩論を通じてジョンソンの詩を読む——……………平松哲司
 Die Kommunistische Erziehung und ihre
 Wertvorstellungen……………Stefan Wundt
 シャルル・モーロンの「精神批評」(3)……………越坂部則道
 『我春集』から『株番』へ……………黄色瑞華
 [研究ノート]
 農村集落における精神的ムラ境の諸相
 ——茨城県桜村における虫送りと道切りを事例として——……………小口千明
 ヴァイマル憲法制定国民議会における裁判官の審査権
 ——「ヴァイマル憲法下の裁判官の審査権」研究序説——……………畑尻剛
 グスターフ・フライタークの〈Soll und Haben〉……………鈴木敏夫

第13号(1986年)

- 巻頭言……………石南國
 “鏡”の論理から“魂”の論理へ
 ——人間記号論序説——……………西勝忠男
 北欧中世(スウェーデン)における自力救済慣行
 ——実力社会の一考察——……………伏島正義
 潮湯の偏在性に関する地理学的予察
 ——日本における海水浴普及との関連から——……………小口千明

ジョイスの“Exiles”における受難の思想について……………	茂 呂 公 一
Eloisa と Belinda の相違……………	石 川 郁 二
状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に 見られる共通特性……………	鎌 田 精三郎
R. Huch の〈スイスの春〉覚え書 ——研究ノート——……………	鈴 木 敏 夫
J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって……………	藤 井 明 彦
ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と 人物描写について……………	飯 塚 英 一
エアリエルの材源再考……………	門 野 泉
パトナム, シドニーの <i>sprezzatura</i> 精神 ——宮廷世界の美学と「ルネサンス・ ヒューマニズム」の対峙——……………	平 松 哲 司
The Dimensions of the U. S.—Japanese Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue……………	古 川 友 章
神話概念の変遷Ⅱ ——翻訳語としての『神話』をめぐって(上)——……………	天 沼 春 樹
自己言及のかたち ——『イリュミナシオン』「生活Ⅲ」と「生活Ⅰ」を読む——……………	新 宅 巖
フロベールにおける登場人物と場面……………	大久保 政 憲
『息 子』……………	アルトゥール・シュニッツラー
——翻 訳——……………	春 日 正 男
『バシュラールと過したひと夏』とその研究Ⅰ……………	越坂部 則 道
アンドレ・ジッドの方法(VI)……………	陶 山 瞳
アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書—— 絵画における悲劇的表現をめぐって」の翻訳と解題……………	堀 田 郷 弘
「シルス・マリーア」をめぐって……………	河 内 信 弘
日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策……………	大豆生田 稔
歌人 安江不空・序(3) ——大和歌の問題——……………	小 野 浩
『志多良』の序文をめぐって……………	黄 色 瑞 華
高橋克巳論——虚無僧のバトス——……………	山 口 勲

第 14 号 (1987年)

Mahāsīvatthera as Seen in the Pāli Aṭṭhakathās ……Sodō Mori

- キーツの『秋に寄せて』(二)
 ——第2連の情景——……………永井豊実
 坪内逍遙とシェイクスピア
 ——帝劇『ハムレット』をめぐる——……………小野昌
 TENSE and TIME in English ……………Seizaburo Kamata
 コシンスキーの『自己芸術』: *Steps* をめぐって ……………繁田眞弓
 Kajii Motojiros “Fliegen im Winter” ……………Stefan Wundt
 E. T. A. ホフマン『さびれた家』
 ——作話技術を中心に——……………齊藤洋
 バルザックの小説の提示部について……………佐野栄一
 [研究ノート]
 ニーチェにおける詩人
 ——ニーチェの詩の理解のために——……………河内信弘
 [研究ノート]
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(一)……………黄色瑞華
 イェイツの「一エーカーの草地」について
 ——〈悟り〉か〈狂気〉か——……………小堀隆司
 アポリネールの恋の詩と真実……………堀田郷弘

第15巻 第1号 (1987年)

- 推論の妥当性から〈魂〉の論理性へ……………西勝忠男
 “Elegy to the Memory of an Unfortunate
 Lady” と “Eloisa to Abelard”……………石川郁二
Faerie Queene, Book Iにおける「光」と「闇」……………古川啓二
 [研究ノート]
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(二)……………黄色瑞華
 「松のひびき波をしらぶ」考……………安保博史
 イェイツ「マイケル・ロバーツの二重の幻想」について
 ——幻滅の狡智——……………小堀隆司

第15巻 第2号 (1987年)

- A Study of the *Sihalavathuppakarana* ……………Sodō Mori
 The Acquisition of English and the
 Learner's Attitude
 ——Motivation vs. Ego Boundary ——……………Fumiko Tamura

James Joyce の “Exiles” と芥川龍之介の

- 『藪の中』との類縁性(1)
- 人物像を中心にして—— 茂 呂 公 一
- 結婚で終わらない喜劇, *Love's Labour's Lost* の構造 小 野 昌
- テオドア・フォンターネ: グスタフ・フライタークの
 <借り方と貸し方> (試訳) 鈴 木 敏 夫
- ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』
 におけるマカーリエ神話 荻 野 静 男
- 神話概念の変遷 I
 ——Mythos の語史に関して (上)—— 天 沼 春 樹
- ニーチェにおける夕
 ——詩人としてのニーチェ—— 河 内 信 弘
- [研究ノート]
- 井泉水編『一茶俳句集』の句(三) 黄 色 瑞 華

第16巻 第1号 (1988年)

ジョイスの “Exiles” と芥川の『藪の中』に
 おける卍巴模様の構造と, 真相の曖昧さの
 意味について

- ジョイス受容史への加筆の試み—— 茂 呂 公 一
- カミュの「無差異」について 村 岡 正 明
- Dostoevskij の小説における思想上の傾向 シュテファン・ヴント
- イエイツ「ビザンチウムへの船出」について
 ——聖なる彼方の詭計—— 小 堀 隆 司
- パシュラルの死をめぐって
 ——『パシュラルと過したひと夏』とその研究 II —— 越坂部 則 道
- ニーチェにおける第七の孤独 河 内 信 弘
- [研究ノート]
- 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(四) 黄 色 瑞 華

第16巻 第2号 (1988年)

ワーグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』

- 《死の薬》をめぐって—— 春 日 正 男
- 『結婚の生理学』におけるバルザックの政治
 と文学の問題 佐 野 栄 一

イエイツの「塔」について

——反復としての回想—— ……………小堀隆司

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(五)……………黄色瑞華

第17巻 第1号 (1989年)

The Value of the Pāli Commentaries as

Research Material ……………Sodō Mori

Eloisa は幸福を手に入れるか

——*An Essay on Man* を基にして—— ……………石川郁二

西ベルリンと国際関係

——ドイツ人のベルリン報告—— ……………シュテファン・ヴント

Zur Erzählstruktur in Kafkas

《Von den Gleichnissen》 ……………Tetsuo Kotani

ディオニュソス酔歌（翻訳）……………河内信弘

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(六)……………黄色瑞華

会員消息欄

第17巻 第2号 (1990年)

乳児の発達……………細部国明

モーツァルトの『魔笛』

——オペラにおける教養小説—— ……………春日正男

A Review of Tesla Methods ……………John Parsons

"詩的に" 考える

——ハイデッガーの作品『思い出』における

考えることの本質への問い——……………高島明

イエイツ『鷹の井戸』

——転生のための不可能性—— ……………小堀隆司

一人称のバシュラール

——『バシュラールと過ごしたひと夏』とその研究Ⅲ ……………越坂部則道

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(七)……………黄色瑞華

第18巻 第1号 (1990年)

水滴の歌

——T. S. エリオットの声—— ……………佐藤 亨

呪文としての文学

——『アメリカ人の成り立ち』の場合—— ……………三芳 康 義

イエイツ『煉獄』について

——王の呪詛と断念—— ……………小堀 隆 司

アンドレ・ジッドの方法Ⅶ

『法王庁の抜け穴』をめぐって(その1)……………陶山 曠

〔研究ノート〕

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(完)……………黄色 瑞 華

会員消息欄